

# 今週のトピック – 2015年6月15日

## 【米景気拡大期と政策金利】

今週のチャートでは、全米経済研究所 (the National Bureau of Economic Research (NBER)) によって示された過去の米国の景気サイクルの期間を、FRBの政策金利とともに表しています。2009年6月に始まったとされる今回の景気拡大期は、1970年以降の平均的な景気拡大期の長さ(6年半)と概ね同等の長さで、金融危機前の2000年代のサイクルともほぼ同じ期間です。過去最も長期に亘った景気拡大期間は1991年から2001年までで、その後「ドットコム」バブル崩壊後の比較的傷が浅いリセッションに突入しました。



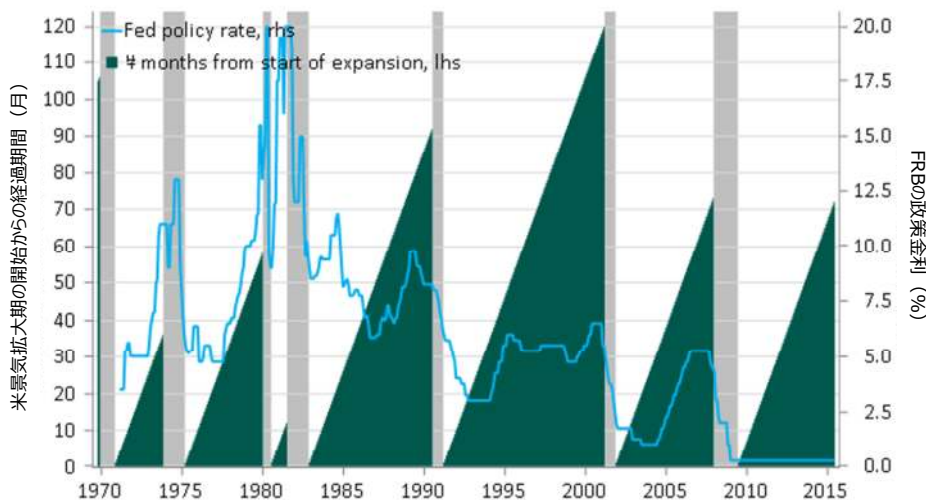
デビッド・ライリー

パートナー兼クレジット戦略ヘッド

## 【今回の景気拡大期の違い】

チャートが示す通り、今回の景気拡大で最も衝撃的なのは、相対的に成熟期に達してはいるものの、FRBがまだ政策金利の引き上げを開始していないということです。金融危機の遺産と、その後の相対的に緩やかな景気回復が、足元の景気回復期が比較的長期に亘っている状況につながっていると見ています。しかしそれを考慮しても、景気回復が始まって6年を経た今でも、FRBの政策金利が依然としてゼロ近辺にあるという現状を予想した人は多くないでしょう。6月16-17日に予定されているFOMC会合後に、FRBは政策金利の引き上げ開始に向けてまた一歩近づくこととなります。

図1. 米景気拡大期の長さFRBの政策金利



注意：灰色の部分、NBERが不況と認定している期間です。

出所：Macrobondのデータを基にBluebayが算出；2015年5月時点